

株主のみなさまへ



第77期 中間報告書

平成28年4月1日 ▶ 平成28年9月30日

contents

トップメッセージ	1
連結財務データ	4
平成28年度第2四半期事業別営業概況	5
Jamco News	7
特集 海外拠点のご紹介	9
会社概況・事業拠点	10
株主メモ／株式の状況	裏表紙

株式会社 **ジャムコ**

証券コード：7408

経営
理念

士魂商才

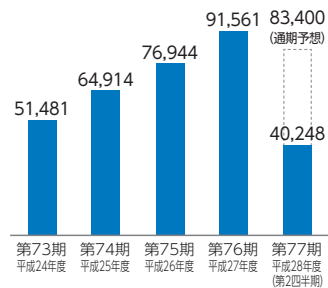
技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

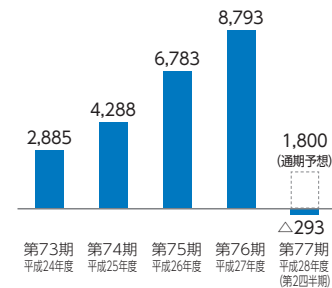


代表取締役社長 大喜多治年

売上高 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)





第77期（平成28年度）第2四半期決算（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の総括をお願いします。

A 史上最高益を記録した昨年度に対して、今年度は円高基調への転換などで厳しい経営環境を予想しておりましたが、この第2四半期決算は、当初の想定以上に悪化いたしました。

航空機内装品等製造関連においては、787関連内装品の生産数量増加に対応しつつ、生産効率改善に向けた取組みを進めると共に、コスト削減をはじめとした諸施策を推し進めました。又、777型機の後継機としてボーイング社が開発を進めている777X型機向けのラボトリーの開発を進めました。しかしその一方で、エアラインから直接受注する現行の777向けギャレーの受注は、777Xへの移行の端境期を迎えて減少し、主力であるギャレーの売上高は前年同四半期に対して減少しました。

平成28年6月28日付で社内組織を再編して新たに独立した航空機シート等製造関連においては、原価低減を進めると共に、平成27年12月にシートの主要構成部品（バックシェル、コンソール等）の量産を開始した(株)宮崎ジャムコ第二工場の生産体制の確立及び生産効率の向上に取組

みました。

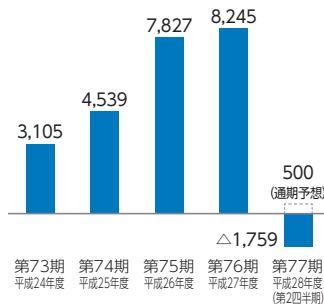
航空機器等製造関連においては、炭素繊維構造部材の新規品目であるエアバスA350型機向け貨物室床下構造部材のコスト増加に対して改善を進めると共に、その他の製品についてもコスト削減を推し進めました。

航空機整備等関連においては、飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、受注回復に努め生産性改善に向けた取組みを進めました。

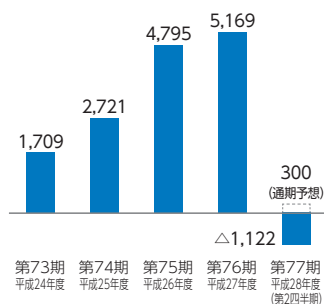
一方、当第2四半期連結累計期間では、前年同四半期に対して為替相場が大幅に円高で推移したことにより、ドル建売上高の目減り、第3四半期以降の完成工事に対する工事損失引当金の増加、ドル建債権等に係る大幅な為替差損の発生など、円高による影響を大きく受けました。なお、当第2四半期連結会計期間末の工事損失引当金は、前連結会計年度末から1,196百万円増加し、当第2四半期連結累計期間の減益要因となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高

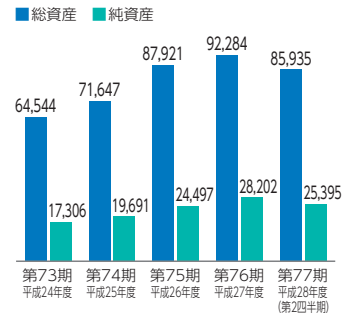
経常利益（単位：百万円）



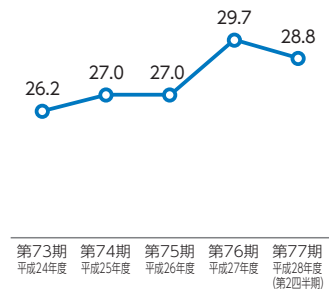
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）



自己資本比率（単位：%）



40,248百万円(前年同四半期比 2,306百万円減)、営業損失 293百万円(前年同四半期は営業利益 3,908百万円)、経常損失 1,759百万円(前年同四半期は経常利益 3,981百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失 1,122百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益 2,690百万円)となりました。

Q | 通期の見通しはいかがですか？

A 当初の計画に対して第2四半期決算の状況が著しく悪化したことから、通期の業績についても当初計画に対して大幅な減益の見通しとなり、連結売上高834億円、営業利益18億円、経常利益5億円、親会社株主に帰属する当期純利益3億円を見込んでおります。前提となる為替レートは平成28年度を通じて平均105円/ドルと、当初計画に対して1ドル当り5円の円高としています。

なお、配当金につきまして、当初の予定どおり中間配当は実施せず、今期末の結果をもって行わせていただく予定ですが、通期の見通しが悪化したことから、誠に申し訳ありませんが配当予想についても1株当り10円(当初予想35円)とさせていただきます予定です。

Q | シート事業の状況について聞かせて下さい。

A シート事業については原価低減が進捗し、前年度に比較して赤字幅は確実に減っています。エアライン向けギャレーの売上が向う2~3年の間は低迷が予想されるなかで、シート事業に関しては顧客から新たな引合いも種々いただいていることから、早期に収益性を改善して新たな事業の柱へと成長させてまいりたい所存です。

Q | 株主へのメッセージをお願いします。

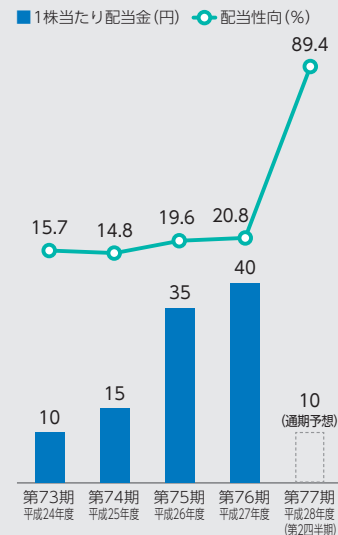
A この上期は大きな損失を計上し、株主のみなさまには大変なご心配をお掛けする結果となりましたが、経営陣はもとより従業員一同、グループの総力をあげて改善に取り組んでまいり所存ですので、引き続きご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

利益配分に関する基本方針

経営基本方針と事業別方針のもと効率的経営を行い、収益の向上を図ることで株主のみなさまには安定かつ継続的に還元を行ってまいります。また、事業等のリスクの発現による不測の事態に備え、かつ将来の設備投資等の資金需要を勘案し、内部留保にも努めることが継続的成長にとって不可欠であり、このバランスを保つことが株主のみなさまへの利益につながるものと考えています。

この基本方針を踏まえつつ、平成28年3月期より、配当指標として「連結配当性向」を導入し、持続的な成長や事業リスクへの備えに必要な財務の健全性とバランスにも配慮の上、当面の間の連結配当性向を20%~30%を目安に配当を決定しております。

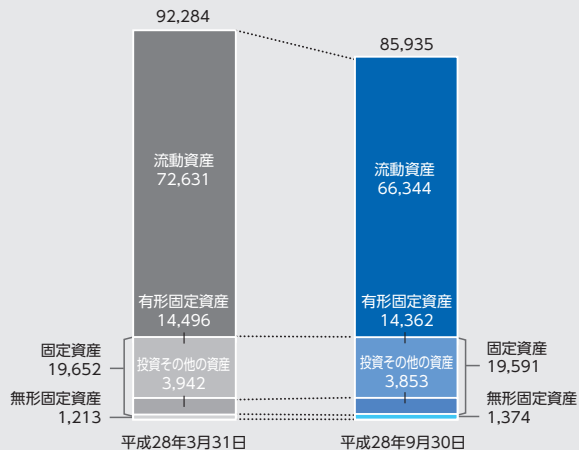
しかしながら、当期は前期比大幅に利益が減少することから、配当性向に拘わらず1株あたり10円(配当性向89.4%)とさせていただきます予定です。



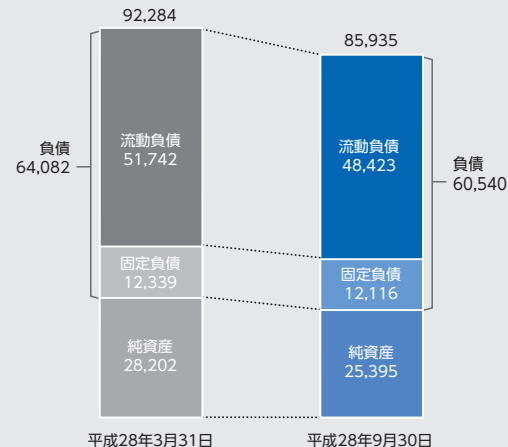
連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

資産の部

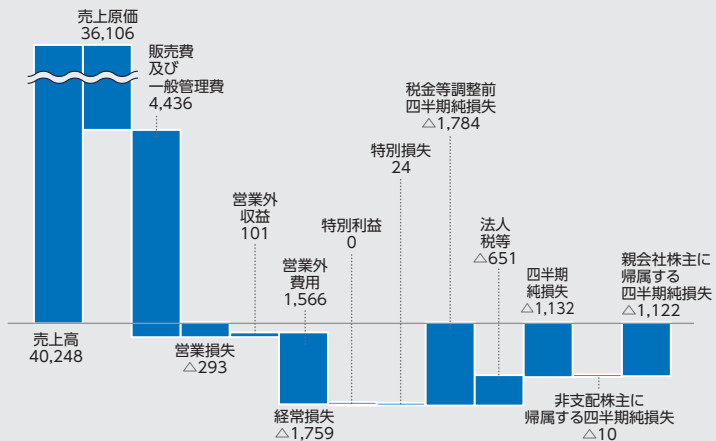


負債・純資産の部



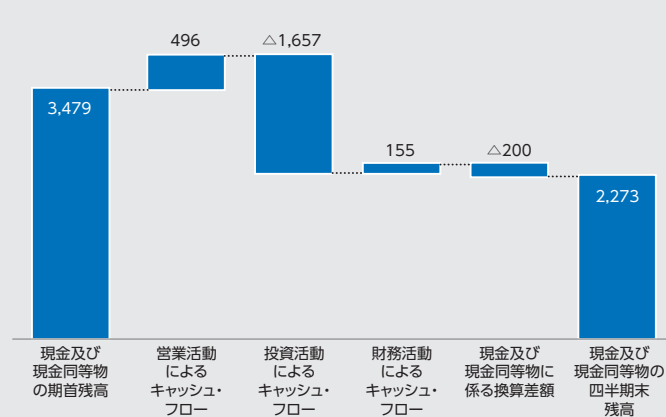
連結損益計算書 (要旨) 平成28年4月1日～平成28年9月30日

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) 平成28年4月1日～平成28年9月30日

(単位：百万円)



航空機内装品製造事業

第2四半期
売上高・経常利益推移

売上高

282億41百万円

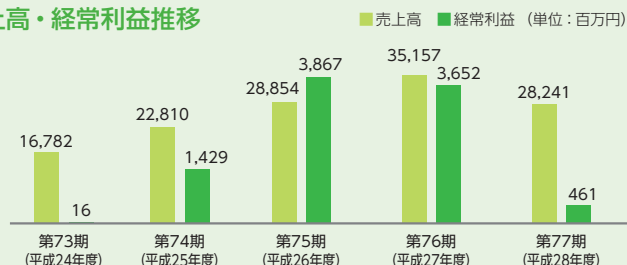
経常利益

4億61百万円

売上高・経常利益推移



エミレーツ航空向け777型機パーカウンター



※平成28年度第2四半期には、航空機シート製造事業の経営成績は含んでおりません。

当期の概況

787型機向け製品の出荷は増加したものの777型機向けギャレの売上高は減少しました。又、前年同四半期好調だったスペアパーツ販売も今期においては若干低調に推移しました。これらに加えて、為替相場が円高で推移したことによる影響を大きく受け、外貨建売上高の目減り、工事損失引当金の増加による売上原価の増加、大幅な営業外為替差損の発生などにより、前年同四半期に比べて売上高及び経常利益は減少しました。この結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、航空機内装品等製造関連は、売上高 28,241百万円、経常利益 461百万円となりました。

事業の概要

主力であるギャレー（厨房設備）、ラバトリー（化粧室）等の客室装備品の企画・開発・設計・製造に加え、客室改造・認証取得などのトータルサービスを、世界の主要なエアラインや、ボーイング社・エアバス社などの航空機メーカーに提供しております。また、国内外グループの総力をあげて世界中のお客様のニーズにお応えし、世界トップクラスのシェアを実現しています。

ギャレーとは >>>

厨房設備のことです。航空機用のギャレーは、機内の限られたスペースで客室乗務員が最も効率良く使いこなせるよう様々な工夫がされており、同時に耐久性や軽量化も求められます。



航空機シート製造事業

第2四半期
売上高・経常利益推移

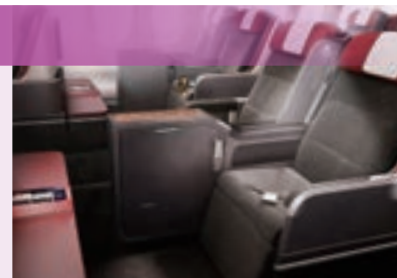
売上高

56億48百万円

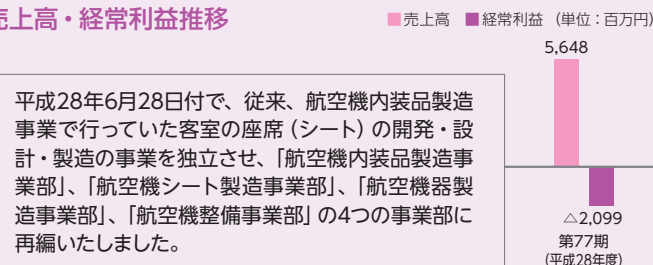
経常損失

△20億99百万円

売上高・経常利益推移



ラタム航空向けA350型機ビジネスクラスシート



平成28年6月28日付で、従来、航空機内装品製造事業で行っていた客室の座席（シート）の開発・設計・製造の事業を独立させ、「航空機内装品製造事業部」、「航空機シート製造事業部」、「航空機器製造事業部」、「航空機整備事業部」の4つの事業部に再編いたしました。

当期の概況

平成26年4月に本格的に事業に参入した航空機シート製造事業は、平成28年6月28日付組織再編により航空機内装品製造事業から独立させ、事業基盤の確立、強化に取組んでおります。当第2四半期においては、シートの主要構成部品（バックシェル、コンソール等）の量産を担う(株)宮崎ジャムコ第二工場の生産体制の確立及び生産効率の向上に取組むなど、原価低減を推し進めましたが、初期開発費負担の影響が残り、又、円高の影響を受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高5,648百万円、経常損失2,099百万円となりました。

事業の概要

航空機旅客シート及びシートコンソールの企画・設計・製造を中心に事業を展開しております。快適性と機能性に優れたプレミアムシートや様々なシートコンソールなどの供給を通じて、快適な空の旅を提供いたします。プレミアムクラスシートの市場における現在のシェアは4～5%程度ですが、引き続きシェア拡大に向けて収益の確保とともに、事業基盤の強化をはかってまいります。

シートコンソールとは >>>

空の旅をより快適に、また安全にシート周辺の個室空間を演出する内装品がシートコンソールです。内装インテリアの多様化に伴い、新素材や強度、外見の美しさなど様々なニーズに応えています。



航空機器製造事業

第2四半期
売上高・経常利益推移

売上高

32億45百万円

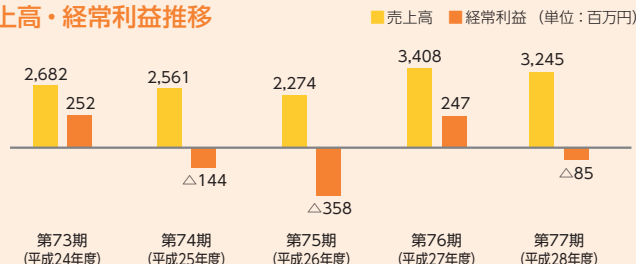
経常損失

△85百万円



エアバスA380 ADP製法による胴体2階床炭素繊維構造部材 (写真提供: エアバス社)

売上高・経常利益推移



当期の概況

民間航空機用エンジン部品の受注が堅調で生産量も増加しましたが、エアバスA380型機向けの炭素繊維構造部材の生産量の減少、為替相場が円高に推移したことによる外貨建売上高の目減りなどにより売上高は減少しました。又、新規品目のA350型機向け炭素繊維構造部材の原価増加などにより、当事業全体では採算性が低下して経常損失となりました。この結果、航空機器等製造関連は、売上高 3,245百万円 (前年同四半期比162百万円減)、経常損失85百万円 (前年同四半期は経常利益 247百万円) となりました。

事業の概要

防衛関連の航空機に搭載される空調用熱交換器等、エアバス機向け垂直尾翼の部材及びA380型機2階床構造に使用されるADP (炭素繊維構造部材) 並びにA350型機向けLower Frame Work (貨物室の床下構造部材)、航空機用エンジン部品などを製造しています。

高度な熟練技能、特殊工程技術及び当社独自の生産技術がこれらの製品に活かされています。



ADP (ADvanced Pultrusion) 製品とは >>>

当社が開発した炭素繊維複合材 (CFRP) の連続成形製法のことです。この製法の特徴は、自動化された連続製法により、理論上長さの制限がない部材が製造できることです。品質に優れ、極めて高い精度を実現しています。

航空機整備事業

第2四半期
売上高・経常利益推移

売上高

31億12百万円

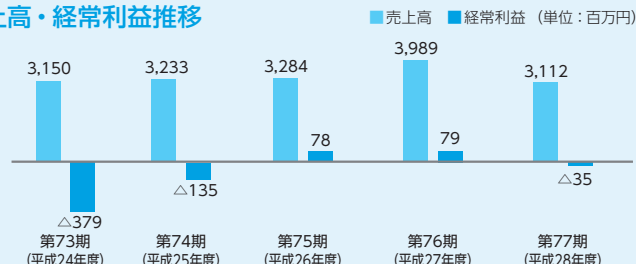
経常損失

△35百万円



機体整備工場 第二格納庫

売上高・経常利益推移



当期の概況

完成工事が多く又特別作業の受注などで比較的好調に推移した前年同四半期に対し、今期においては完成工事が減少するなどにより売上高が減少しました。又、売上高の減少に伴い事業全体の採算性が低下して経常損失となりました。この結果、航空機整備等関連は、売上高 3,112百万円 (前年同四半期比 876百万円減)、経常損失35百万円 (前年同四半期は経常利益 79百万円) となりました。

事業の概要

1955年の創業以来、今日まで航空機整備会社としての歴史を受け継いでいます。近年では、国内エアラインのリージョナル機をはじめ、官公庁 (防衛省・海上保安庁・航空大学校など) より中小型飛行機・ヘリコプターの整備・改造、並びに大型機を含めた車輪・ブレーキをはじめとした各種装備品の整備を受託しています。これからも飛行安全の確保と品質向上を最優先にお客様へ迅速で確実なサービスを提供していきます。



リージョナル機とは >>>

座席数が50~100席程度で、地域の都市間を飛行する旅客機を指します。国内では、燃料効率の良いリージョナル機が積極的に導入されており、当社では定期整備や改造などに対応できる体制を整えています。

4月

エアバス・サプライヤー・サポート・レイティング 2015 アワード受賞

4月5日、ドイツハンブルクで行われたエアクラフト インテリアエキスポ2016において、エアバス社より、「エアバス サプライヤー・サポート・レイティング 2015アワード」を受賞しました。

航空機内装品製造事業部は、エアバス機向けにギャレー（厨房設備）及びギャレーインサート（厨房設備に搭載する装備品）を供給しています。

このたびは、信頼性の高い機器や関連サポートを継続的に提供する能力及び顧客支援が高く評価され、また顧客満足度向上に顕著な貢献を果たしたとして、サプライヤー25社中、当社を含めた6社が選抜され、当社は総合順位3位、モニュメント部門2位の成績での受賞となりました。

当社は今後も、高い安全性と品質が求められる航空機内装品のサプライヤーとして、現在取り組んでいるA350型機 ICEリアギャレープログラムをはじめとした製品供給において、顧客満足度のさらなる向上を目指してまいります。

※ICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーとは、エアバス社の最新鋭大型旅客機A350型機の客室後方に搭載されるギャレー（厨房設備）とラバトリー（化粧室）が一体となったものです。



4月

LC-90型機 定期検査1500機達成

4月6日、航空機整備事業部傘下の(株)徳島ジャムコは、LC-90 9305号機の試験飛行をもって、海上自衛隊から受託している航空機の定期検査1500機を達成しました。記念セレモニーには、現地徳島の各部隊指揮官のほか、当該機の所属基地である厚木からも所属部隊の飛行隊長に参加していただきました。

星野社長が参加の部隊指揮官各位に御礼を述べ、さらに「今後とも、高い品質の航空機整備技術の提供と飛行安全への貢献を目標とし最大限の努力を注いでまいります。」と力強く宣言しました。

参考 定期検査の変遷

- 初号機：1993(平成5)年1月13日
- 100機：1995(平成7)年3月3日
- 500機：2000(平成12)年1月25日
- 1000機：2008(平成20)年10月15日
- 1500機：2016(平成28)年4月6日



4月

2015年 ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞

4月13日、航空機内装品製造事業部はかねてから目標にしていたボーイング社のサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞いたしました。13,000社にのぼるボーイング社のサプライヤーの中から12社が受賞し、当社はアライアンス賞を獲得しました。今回の受賞は、2002年に続き、2度目の栄誉となります。

当社とボーイング社の関係は、1970年の727型機向けギャレー（厨房設備）の供給にはじまり、現在まで数多くのボーイング社の機体向けにギャレーを供給しております。また、ラバトリー（化粧室）は、1979年の767型機向け受注にはじまり、その後もボーイング社に対して747、777、787型機向けに独占供給しており、2014年には777X型機用ラバトリーのサプライヤーとしても選定されました。

本受賞は、当社の永年にわたるボーイング社とのパートナーシップ、そして高品質な製品を期日通りに供給する能力と、これまでの経験、技術、絶え間なく改善に向けて努力する姿勢が評価されたものであり、大変栄誉あるものです。



4月

エアバスA350型機向け 貨物室床下構造材の初出荷

4月18日、A350型機向け貨物室床下構造材（カーゴストラット）をプレミアムエアロテック社（所在地：ドイツ アウグスブルグ）の工場へ向けて初出荷いたしました。

当社はこれまで、他のエアバス機向けに炭素繊維構造部材を供給してまいりましたが、A350型機向け部材の供給実現により、エアバス旅客機全機種で当社製炭素繊維構造部材が使用されることとなります。

当該製品の製造は、航空機器製造事業部傘下の(株)ジャムコエアロマニュファクチャリング（所在地：宮城県名取市）が行い、プレミアムエアロテック社の生産計画に合わせて月産8機分の納入を予定しています。



7月

新潟ジャムコ第二工場にてエアバスA350型機 ICEリアギャレー生産開始

6月30日、2月に操業開始した航空機内装品製造事業部傘下の(株)新潟ジャムコ第二工場において、エアバス社向けとしては当社初の直接契約となるA350型機 ICEリアギャレーの生産が開始され、セレモニーを行いました。



新潟ジャムコ第三工場初出荷

7月8日、(株)新潟ジャムコ第三工場において製品が完成し初出荷となりました。昨年10月の(株)中条ジャムコ創業後、同社工場内に、(株)新潟ジャムコ第三工場展開準備を開始、本年5月に生産が開始され、製品初出荷となりました。

新潟における航空機内装品製造の主力工場として、順調に展開が進んでおります。



ボーイング787型機 ギャレー&ラバトリー 500号機完成記念

7月29日、(株)新潟ジャムコにおいて787型機向けギャレー（厨房設備）&ラバトリー（化粧室）の500号機が完成しました。2009年3月にギャレーを初出荷して以来、7年4か月をかけての500機到達となりました。バナー日付の8月5日は、500号機 ギャレー&ラバトリー（分納）の最終出荷日です。



JAMCO AMERICA, INC. (ジャムコアメリカ)

今回の特集では、ジャムコグループ最大の海外拠点のJAMCO AMERICA, INC.を紹介いたします。

同社は、ボーイング767型機ラバトリー受注を契機に、ワシントン州にあるボーイング社エバレット工場の近隣に設立されました。航空機客室改修の業務を中心に事業を拡大し、その後シート事業も展開しています。

客室装備品の新規搭載、配置換え、設計やプロジェクトの管理、改造用部品の製造と認証取得を行っております。

また、アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA認定*を取得しており、FAAに代わって航空機客室改造の追加型式証明を発行することができます。

これからもJAMCO AMERICA, INC.は、ジャムコグループにおける重要な拠点として、その役割を果たし続けてまいります。

※【ODAとは】米国において航空機及びその部品等を設計・製造して出荷する場合に、安全に搭載できることを証明するためにFAAによる検査及び認証が必要となります。認証業務に関し豊富な知識、経験を有し、優れた安全管理体制を備えた企業へ認証代行の権限を委譲する制度がODA (Organization Designation Authorization) です。



B1棟



JAMCO AMERICA, INC.会社概要

- 設 立：1982年2月
- 出資比率：92% (連結子会社)
- 主な事業：航空機内装品の製造、
ボーイング向けラバトリーの最終組立、
機体改造、設計及び当局承認取得、
スペアパーツの販売
- 住 所：1018 80th Street SW. Everett, WA98203,USA

会社概況・事業拠点

会社概況 (平成28年9月末現在)

会社概況

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番
設立年月日	昭和24年3月15日
創立年月日	昭和30年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連事業 ガレージ、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート製造事業 航空機シート及びシートコンソールの製造 航空機器等製造関連事業 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連事業 航空機の機体、客室、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：3,108名 個別：1,221名

役員／執行役員

代表取締役社長	大喜多 治年	常務執行役員	市原 一義
代表取締役副社長執行役員	大倉 敏治	常務執行役員	田所 和夫
代表取締役副社長執行役員	大上 克裕	常務執行役員	西宮 雅人
代表取締役専務執行役員	関川 安雄	執行役員	鈴木 幸男
取締役専務執行役員	木村 敏和	執行役員	伊田 浩
取締役常務執行役員	青木 康成	執行役員	内城 俊雄
取締役常務執行役員	粕谷 寿久	執行役員	豊福 憲一
取締役常務執行役員	加藤 正道	執行役員	夏目 行雄
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	阿部 努
社外取締役	大崎 直哉	執行役員	近藤 英二
社外取締役	小堀 寿亮	執行役員	
社外取締役*	鈴木 伸一		
社外取締役*	渡辺 樹一		
監査役	和田 正史		
監査役	磯上 範好		
社外監査役*	河村 寛治		
社外監査役*	木須 芳紹		

※は、東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (平成28年9月末現在)

事業所／子会社／関連会社一覧

本社 東京都立川市

航空機内装品・機器製造事業部

- 航空機内装品製造事業部 東京都立川市
- 航空機シート製造事業部 東京都立川市
- 航空機器製造事業部 東京都三鷹市

航空機整備事業部

- 機体整備工場 宮城県岩沼市
- 帯広支所 北海道帯広市
- 中部事業所 愛知県常滑市
- 宮崎事業所 宮崎県宮崎市
- 部品整備工場 千葉県成田市

JAMCO 事業所・工場
JAMCO 子会社・関連会社

新潟支所 (株)新潟ジャムコ (株)中条ジャムコ

帯広支所 航空機整備事業部 機体整備工場 (株)ジャムコ エアロ マニュファクチャリング

航空機器製造事業部 航空機整備事業部 部品整備工場 (三鷹)

航空機整備事業部 部品整備工場 (成田) (株)ジャムコ エアロテック

航空機整備事業部 部品整備工場 (羽田)

宮崎事業所 (株)宮崎ジャムコ

(株)徳島ジャムコ 中部事業所

Germany JAMCO Corporation HAMBURG BRANCH

United States JAMCO AMERICA, INC.

Japan JAMCO Corporation

Philippines JAMCO PHILIPPINES, INC.

Singapore JAMCO SINGAPORE PTE LTD. JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD. SINGAPORE JAMCO SERVICES PTE LTD.

株主メモ

事業年度 …… 4月1日～翌年3月31日

期末配当金受領株主確定日 …… 3月31日

中間配当金受領株主確定日 …… 9月30日

定時株主総会 …… 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 …… 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)

上 場 証 券 取 引 所 …… 東京証券取引所第一部

電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html>
公 告 の 方 法 …… (但し、電子公告によることが出来ない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.jamco.co.jp/>) においてご覧いただけます。

ご注意

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできません。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店にお問い合わせください。

株式の状況 (平成28年9月末現在)

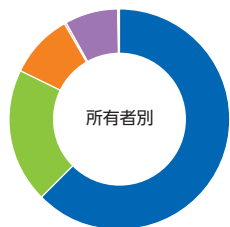
発行可能株式総数 …… 80,000,000株

発行済株式の総数 …… 26,863,974株

株 主 数 …… 7,236名

上 場 証 券 取 引 所 …… 東京証券取引所第一部 (証券コード7408)

株式分布状況



所有者別	割合	株数
■ 事業法人	62.70%	16,844,243株
■ 個人・その他	19.60%	5,264,367株
■ 金融機関	9.46%	2,543,700株
■ 証券会社	0.35%	94,265株
■ 外国法人等	7.74%	2,078,669株
■ 自己名義株式	0.14%	38,730株
■ 未指定	1.14%	300,000株

大株主 (上位10名)

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.39
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	500	1.86
ジャムコ従業員持株会	418	1.56
BNYMSANV RE BNYMTD RE CF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	245	0.91
第一生命保険株式会社	234	0.87
三菱商事株式会社	221	0.82
株式会社みずほ銀行	200	0.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	0.74

(注)持株比率は自己株式(38,730株)を控除して計算しております。

株式会社 **ジャムコ**

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900 (代表)
TEL:042-503-9146 (広報・IR 経営企画部)

※ 本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。